

令和 8 年度佐賀県立名護屋城博物館協議会議事録

日 時：令和 8 年 8 月 6 日（木）13：00～15：00

場 所：佐賀県立名護屋城博物館 図書閲覧室

出席者：委員 10 名 中野委員長、福岡修副委員長、楠井委員、中村委員、
矢筒委員、古賀委員、東島委員、南委員、高木委員、
石山委員

事務局 7 名 家田館長、富岡統括副館長、武谷副館長、市川学芸課長、
岩永企画普及係長、海津総務課長、西係長

会議の冒頭、館長のあいさつの後、委員及び事務局職員の紹介、議長選出（委員長を議長に選任）を行い、議事に入った。

議 事

- （１）事業実施状況
統括副館長から説明
- （２）「はじまりの名護屋城。」プロジェクト
統括副館長から説明
- （３）前回協議会における意見概要と対応状況
総務課長が資料に基づき説明
- （４）質疑応答

〔議 長〕

今回は事務局で随分努力していただきまして、質問やご意見をやり取りできる時間をたっぷり取っておりますので、積極的なご意見ご発言をお願いしたいと思います。

まず議案 1 の事業実施状況について何かご質問・ご意見等ございますでしょうか。

〔委 員〕

私は事業関係者として、「はじまりの名護屋城。」「黄金の茶室」と「草庵茶室」の体験プログラムに参加させていただきました。常のお稽古や、そういうお茶の所からすると違った体験ができますので、これからは機会がありましたらご協力させていただきたいと思っております。

草庵茶室の体験プログラムを一昨年と昨年と、今回7月26日に協力させていただいています。その体験プログラムに参加させていただいた時の感想をお話します。

昨年は、夜の部と昼の部とあって、昼の部は、一般の来館者の皆さんに声をかけられて、金額も安かったかと思います。夜の部は予約された方で、確か1万円くらいで何人か参加者が、企画展示室をご覧になった後に草庵茶室に降りてきて、そこで私たちがお点前をして、お茶を差し上げてという流れになっていたかと思います。お一人や二人の参加者の方に、本当に全館をあげて準備をなさってお迎えをされていることが、すごいなあと思っていました。

今年もあるのかなあと思ったら、今年は無かったので…無いんですかね？今のところ聞いておりませんので、残念だなと思うんですけど、少人数で参加された方に、あれだけのおもてなしをしていただくのは、本当に記憶に残る素晴らしい体験じゃなかったかと思います。

それとは別に、お客様が下に降りてこられるまでの間、私たちは茶室の所で準備して待っておりまして。そしたら、もう（朝の時間を再現する）夜なので、夕方からとっぴり日が暮れたところを朝ということでお点前をとということでしたけれども、待っている間に、外が日が暮れるんですね。日が暮れて本当に真っ暗になったと同時に、草庵茶室の中にあった間接照明がほわっと明かりが点いたというか、すごくそれが幻想的に見えました。

こういう暗がりの中という、昔はそれが当たり前だったけれども、今もう何をするのも、こんなに明るいところでしか生活をしないので、本来400数十年前の茶室で、こんな暗い中でお茶を点てていたところを、一人ではなくて、例えば近くの子どもたち、学校の子どもたちであったり、何か見せられないのかなというふうに感じました。

だいぶ以前、名護屋城博物館で夏休みの期間にナイトミュージアムというのがあって、お城の本丸まで行くイベントが数年行われたと記憶しております。うちの子どもたちと参加して、すごく素晴らしいなと思っていたら、取りやめになったので、すごく残念だなと思って。

ナイトミュージアムは外なので天候に左右されますけれど、例えば草庵茶室を夜に見せるということであれば、天候には左右はされないの、ナイトミュージアムのような形でいっぱい見せてあげて、昔はこういう風な暗い所でやっていたんですよとか、これが普通だったんですよというようなことを、例えば親子と一緒に、友達に体験をさせるとかですね。そういう使い方をされるといかがでしょう。

特別なもので特別なおもてなしも、もちろんいいですけど、お金をかけないでそういう風に草庵茶室を有効活用されてはどうかかなと、自分たちが参加させていただいて感じました。博物館さんの方も大変お忙しいと思いますが、イベントの一つとして考えていただけたらと思いました。

〔議長〕

ありがとうございました。ご注文ですけども。

〔事務局〕

まず草庵茶室にご協力いただきましてありがとうございます。先ほどおっしゃられた夜間の分ですけども、おっしゃるように、ろうそくの光、電気なんですけど、ろうそくの光で通路を作るみたいな形もして、非常に幻想的で雰囲気が大変良かったんですけど、応募も予約も少なく、大変手間がものすごくかかっているもので、今年はやめようかということで取り止めたところです。

昼間の部は、結構去年も今年も来ていただいているので、それはやっていこうとしています。ナイトミュージアムですけども、このナイトミュージアムは夜に博物館内じゃなくて城跡の方に行くというのが一昨年まであっていました。

働き方改革と言いますか、そういったところもございまして、今取りやめになっていますが、夜城跡に行くとなると真っ暗なもので、いろいろ問題もございしますので、提案があったように、草庵茶室や企画展示室の方を、映画のナイトミュージアムじゃないですけども、あーいった形でやるというのは、一つの案だと思いますので、個人的にはそういうのが好きなんですけども、いろいろ大変な面もありますので、それは今後、検討させていただきたいと思います。

〔議 長〕

はい、ありがとうございます。よろしいでしょうか。説明があった内容は、学校教育・教育普及活動のウェイトが大きかったように存じましたので、学校現場からの声をいただきたいと思います。

〔委 員〕

はい、名護屋城博物館協議会について、学校教育との連携はすごくいいなと思いました。なかなか子どもたちは博物館に行かないとか、バス代が無くてというところも話し合いで出たので、学校の中で講話みたいなことをするのはすごくいいなと思いました。私は、海青中学校なんですけど、ぜひ入れていただきたかったところでした。 以上です。

〔議 長〕

ありがとうございます。

小学校でいうと、名護屋小学校の方、同じように聞いてみたいと思います。

〔委 員〕

はい、本当に名護屋城博物館の方には、教育活動でのご協力をいただき、本当にありがとうございます。1学期の7月にも来ていただいて、その前にも5月には子どもたちがこちらの方に来たりですね。子どもたち(もう六年生なので12歳になる)に聞くと1回来たかな、ぐらいなんです。やはりこれだけ身近にあってもなかなか行かないんだというのが伝わるような反応でした。それで、その理由を聞いたら、ちょっと手厳しいことになるかもしれないんですけど、さわれるものが無いところや、体験するものが少ないところでした。

今の小学生は、どうしてもスマホを持ちながら、別のゲームとかになってしまう。少し寂しいなと思いつつも、体験すること、何かできることとなると、博物館の方に足を運ばない

というのが、ふと思ったところです。（名護屋城博物館は）本当に素晴らしいところだと思うんですけど、なかなかそういうところで、小学生だなと思うところがまずありました。

それで、学校の先生と話す中で、総合の学習というところで色々と名護屋城のご協力をいただいているんですが、「オルレコース」というところで、今年も行きましたが、去年までは整備される方もいて、案内してくださる方もいて、みたいなのが今年は無くてですね。行ってみたら、草ぼうぼうの獣が通ったかなみたいな跡が何個かあったりして。これは厳しいかなというところで、今までは1日かけていろんな所を巡っていたんですけども、3回ぐらいに分けて、前田利家陣跡と堀秀治陣跡などのような、ちょっと有名な所しか行けなくて。色んな所を巡りたかったんですけども、選抜しないといけなくなったので、可能ならばそのあたりも、今度、名護屋城博物館と連携して、いろいろ1日かけて巡りたいなというところですよ。

ここまでの所はなかなかありませんので、それを学校の先生と話し合っていたところでした。本当に協力いただいてありがたいです。なので、そこまですると、子どもたちもやはり忘れない経験になるかなと思いますので、そうするとまたここ、名護屋城博物館の方にも足を運べるかなというところで感じたところを申し上げました。ありがとうございます。

〔議 長〕

ありがとうございます。よろしいですね。広域的な話なので、唐津市の委員に広域的な環境整備の話も伺ったところで事務局の方から回答させていただきたいと思います。

〔委 員〕

今年は、「なごや歴史講座」も含めて、よく名護屋城博物館を利用することがあるんですが、教育普及活動の「なごや歴史講座」のところで。受付のやり方が変わりましたか？

〔事務局〕

会員さんは丸を書いていただいて、会員外の方は名前と住所の市ぐらいを書いていただくという形です。

〔委 員〕

会員っていうのは、カードみたいなものがあるという？

〔事務局〕

そう、カードみたいな。年間会員というよな。

〔委 員〕

年間何回か来たら？

〔事務局〕

最初に登録して、年間会員というカードに入って。年間10回やるんですけど、その中で例えば7回以上だと修了証などをお渡しする。それは変わってないです。

〔委 員〕

表彰されるんですよね。次年度にはそれを持ってくるってことですか？

〔事務局〕

いや、また新しく登録します。

〔委 員〕

私のように 去年、いろんな行事が重なって講座に行くことができなかったんですけども、今年は 1 回目、2 回目と参加したんですが、いつも「唐津市」で書いてるんですよね。そのカードの説明が少しあったら登録したいです。

〔委 員〕

はい、すみません。私も 1 回目行ったんですけど、登録されて、なんか会員になれるのかなと思ったんですけど、何もご案内も何も無いですね。「名前書きましたかね」くらいで。

〔委 員〕

これは会員にならないのかなと思ってたら、もう「どうぞ」と言われたので、何なんだろうと思って。

〔委 員〕

今後参加してもカウントされないんですよね。実質 2 回行ったんですけど。少し寂しい思いをしました。

それと、少しまとめてきました。

全国城下町シンポジウム唐津大会の NHK 大河ドラマ「豊臣兄弟」の出演俳優によるトークライブが博物館で開催され、俳優 3 人が城跡と陣跡をめぐってシンポジウムに臨まれたとのことでした。自身にまつわる陣跡や太閤道の話、中でもクイズに「この人は誰？」というクイズがあって、呼子大綱引きが出されました。現在も継承されていることに 3 人は「すごい！」と声をそろえたと新聞記事にも載っていました。昨年、呼子小学校で歴史の話、呼子大綱引きと名護屋城とのつながり、呼子大綱引きは呼子の人々にとってとても大切な行事であることなど講座をしていただきました。せっかく学校と博物館がつながり、1 回限りの講座にならないようにと願っておりますが、今回はどうなりましたかと質問しようと思っていきましたら、先ほど説明でもありましたように、この（前年度意見の対応状況）回答が出されましたので、ぜひ次は冊子（年報）の中に、名護屋小学校だけではなく、呼子小学校も載るように、博物館の実績にもなると思いますので、ぜひお願いします。

また、呼子で自転車の貸し出しのシェアサイクル「チャリチャリ」が開始されました。駐輪場が今のところは呼子エリアまでですが、このあたりまでエリアが伸びてほしいなと思っています。博物館や博物館近くの陣跡を回ったり、自由に自転車で巡り、新たな旅の時間になるのではないかと思います。駐車できない陣跡もあるので、自転車は環境にも優しく、小回りが利き、移動のハードルが下がります。「陣跡巡り」・「チャリチャリマップ」のようなものがあれば、自分のペースで景色を楽しみながら、のんびりと観光ができるように思います。以上です。

〔議 長〕

ありがとうございます。

〔事務局〕

三先生方、ありがとうございました。まず、海青中学校については、二年前だったか、呼んでいただいて、いわゆる出前講座をしたようなところがありましたので、今後ますます呼

んでいただければ、こちらも嬉しいので、ぜひよろしくお願いいたします。それから名護屋小学校については、本当に毎年、さっきも言いましたけど、私は発表会を聞きに行くのがすごく楽しみで、ますます進めていただこうと思います。

それからオルレの話なんですけど、昨年の5月、実は確か10年続いていたオルレコースというのが廃止になりました。すごく、特に韓国に限らず、佐賀県内は嬉野と武雄と、それからここ唐津にあって、それぞれ一定の効果があつたと思うんですけど、なかなか管理上大変だったという理由をお聞きしましたが、一旦やめるということです。でも今言っていたように、地元の子どもたちがこんなに活用しようとしていただいているということは本当に意味のある施設じゃないかなと思いますので、我々もまたそういうふうに、唐津市の方にお話ししていければというふうに思っております。

それから「なごや歴史講座」の件では、本館として行き違いがあつたようで失礼しました。

〔委 員〕

講座の最初（6月15日）に、ご案内があつたらいいですね。

〔事務局〕

確か最初に登録することになっています。

〔委 員〕

「カードは持たれてますか」「いいえ」「じゃあお名前こちらに」という感じだったんです。で、また2回目行った時も同じだったので、そのカードってなんですかと聞いたんです。

〔事務局〕

なるほど。行き違いがあつたようですね。次の会にぜひ対応させたいと思います。それから、呼子小学校ですね。あれは本当に、昨年・一昨年から声をかけていただいて、うちの方から派遣させていただき、本当によかったと思います。それで、これも前回協議会における意見概要と対応状況に書いておりますように、今年も実施予定となっております。

〔委 員〕

良かったです。ご挨拶にあつたので。

〔事務局〕

引き続きですね、名護屋小学校と同様、呼子の方も継続して、子どもたちとの接点を設けるようにならないと、というふうに考えています。

それから「チャリチャリ」について。先月スタートして、つまりレンタサイクルですね。博多とか福岡は、本当に簡便に自転車を借りてできるシステムがあります。それを呼子で始められたんですね。で、やっぱり見てると呼子と名護屋、地元は地元なんですけど、少し雰囲気が違うようなところもあって、呼子は今本当に外部の人たちも入ってきて、いろんな新しいお店とか、そういうサービスなんかも始まっている。それで聞いたところ、例えば自転車も名護屋の方面まで持っていれば、というのは利用率を考えてやりたいということでしたので、ぜひお願いできればというところでございます。呼子の本当に新しい雰囲気というのが、名護屋の方にも、いい意味でやってくればというふうに、我々も期待しているところでございます。

それから、色んなうちの体験プログラムが少し中止されたというお話があったんですけど。例えばナイトミュージアムは確かに人気があって、十年以上、もっとでしたかね、続いて、館の中でもいろいろ議論があったんですけども。一つは、実は外に出て星がタイミングが良ければ見えるんですけど、見えないことも多い、落雷も発生したこともあるというのも実はあったんですけど、一番大きかったのは、そういう従来の体験プログラムをやっている中で、一方では、例えば黄金の茶室などに見られるような、ああいう新しい非常にこう、館の職員の注力といいますか、すべきところがまた新たに出てきてですね、結構そうなる中で、議論が随分あったんですけど、所謂スクラップアンドビルドじゃないけども、どこを一旦止めて、新しいプログラムに注力するかというようなことで、見直しをとりあえず行ったということでございますが、今、何人もの委員の皆さんから、あれは良かったというような意見を寄せていただいたことを、ぜひ記録して、またできれば再開するとか、新たにバージョンアップするとか、その辺を考えていければというふうに思います。

〔議長〕

はい、ありがとうございました。案件がもうすでに横に、広がっておりますので、1番に限らず、2番、3番に関係するご質問でも構いません。

〔委員〕

すみません、質問じゃなくて、あるイベントの紹介をさせていただこうかと思ひまして。この「はじまりの名護屋城。」の一番最後に。プラプラの紹介で、スライド番号13番。プラスチックプランニングセンターという施設が6月にできております。先月、7月25日に、インターアクトラブという団体がございまして、佐賀、長崎のロータリーが提供するインターアクト高校生の160名をこの名護屋城博物館のホールに集めまして、そこに引率の先生、それからロータリー等を集めて約200名を超える規模でイベントを行いました。で、その後にプラプラに。3つ分科会がありまして、その一つの分科会がプラプラに行って、いわゆる海洋ごみについて勉強しようという会でありました。高校生がやっぱりここに初めて来たということが結構多くて。やはりその歴史と文化と、そして海洋ゴミという環境を学べる一泊二日のイベントをさせていただきました。その後、その高校生に聞きますと、今度お父さんに連れてきてもらおうかなと言っていましたので、是非とも、ここで体験したことをまたもう一度、名護屋の歴史、博物館に来てくれるのかなと、そういう気がいたしました。こういったイベントを、プラプラが出来ましたので、名護屋城博物館とプラプラ、こういったことをやりながら、我々もやっていこうかなと思います。

〔議長〕

ありがとうございました。ほかに何かございますでしょうか。先ほど申しましたようにも、横断的にいろんなご質問ご意見をいただきたいと思いますが。

〔委員〕

それでは一つ、教えていただきたいんですけども、テレビ番組に取り上げていただいたというのは、何かこちらからプロモーションをかけたのでしょうか。

〔事務局〕

「博士ちゃん」のことですね。向こうからです。

〔事務局〕

4月に取材対応させていただきました。

〔委員〕

そうなんですね。やはりこういうことが、一つの、全国的に知られるきっかけになる。実際に効果も出ていますので、すごく注目すべきことだなと思いました。こちらから「こういう面白いネタがあるんだけど」と、いろんなメディアの皆さんの力を借りて積極的にアピールするのも一つの広報戦略になるのかなと、お聞きしながら思った次第です。

それからもう一つ。今度はツーリズム関係になるかと思うんですけども。先ほど「チャリチャリ」のお話もちょっと出てきて、へえって思ったんですけども。私、今回で3回目の協議会出席となります。いつも車でちょっと早めに出て、早く着いたら、この辺をぐるっと回ってみるっていうことも、毎年楽しみにしております。今回気づいたのは、あの「ルートグランブール」という文字が、路面上にこうしっかりと、点々と標示されていて、すごく興味を持ちました。で、これをたどっていくと、呼子の町、そして名護屋城あたりへとたどり着けたので、また新しい試みをされているんだなと思いました。これ、数年前からされていたのかもしれませんが、特に今回、しっかり路面上に標示されていることに気が付いて驚いた次第です。

それからそのルートをたどって、こちらの方に近づいてきた時、一箇所、私、間違ってしまったまして、呼子の大橋の方に行ってしまったんです。確かに立て看板はあったんですけど、矢印の方向があいまいだったので、大橋の方まで行ってしまって、引き返したということがありました。具体的な場所はどこか分からないんですけど。細かいことですが、あらためて点検されるといいかなと思いました。

それと「チャリチャリ」を呼子の町でやっているとお聞きして、確かに町の中を車で通った時に、朝市の通りに人がいっぱいいたんですね。平日なのに結構来てるんだと驚いたんですけども、だんだん名護屋城に近づいてくると、人がまったく感じられなくなる。もちろん車で来るしかないのですが、呼子の町とこの城址・陣跡をつなぐ移動手段、「チャリチャリ」もそうですし、あるいは週末だけコミュニティバスを運行するなど。（この地域にコミュニティバスがあるのかなのか分からないですが）。それらを活用して、呼子だけでなく、少し足を延ばしていただいて陣跡も周遊できるような工夫が必要ではないかと思ったところです。「チャリチャリ」、電動自転車ならなおいいと思うんですけど、楽しくて楽しく回る仕組みがあるといいなと思いました。それが2つ目です。

もう一つなんですけれども、これは個人的な趣味の世界なんですけど、私、歴史的なスポットを巡る時に、そこが舞台になった小説を事前に読んで出かけるのが大好きなんです。ですから、この名護屋城址の景色も私大好きなんです。こうしたところが、ドラマなり小説なりに取り上げられて舞台になったりすると、次は実際にその場所に行ってみようというふうに私はなるんですけども。聖地巡礼といいますか、そういうプロモーションなども検討されたら面白いんじゃないかなと思いました。

お隣の長崎県は、小説家や漫画家に来県取材にかかる諸経費を助成して、長崎県を舞台とする作品を創作してもらう事業（「描いてみんな！長崎」）をしておられます。まだ続いているんじゃないかなと思うんですけども。いろんな賞を取られた小説家が、県に招待されて何日間か取材され、何年かのうちに短編小説なりに仕上げて、それを発表するというような試みをされていますので、ご参考までにご紹介します。以上です。

〔議長〕

関連した質問があれば続けていきたいと思います。

いずれにしても、何か地域に根付いているようで、少し根付き方が浅いような印象を今のやり取りで聞こえてくるし、だからといって、県域全体に広がっているわけでもないの、ちょっと大きな転換期が来ているのかもしれないけれども、何か足場のちょっと弱さみたいなのを今感じているのですが、いずれにしても、人と金をどうか、いろいろ動かすにあたっては、県の方のバックアップというか、協力も必要かと思うんですけども。

何か委員の方からアドバイスなり提案なりございますでしょうか。

〔委員〕

はい、自己紹介で、先ほどはですね、常任委員会の委員長として、ここに来たということを行いましたけど、実は私はこの委員は自分で希望してきました。先ほどですね。お城フェスとかお城 EXPO とか。実は私は名護屋城の法被を着て、お城フェスやお城 EXPO で名護屋城の応援団として市会、市役所の職員さんや、県庁職員と一緒に名護屋城で客引きをしました。応援団の位置で。是非ここにということで来らせていただいております。先ほど、言われました「チャリチャリ」、「ルートグランブルー」の件はですね、今日県の職員が来てないんで、私が代表する形なんですけど、実はですね、今このエリアを県としては、ものすごくアピールしたい、観光としてやりたいということで、いろんなことをこの名護屋城博物館だけじゃなくて、この地域全体を活性化させようということで取り組みをやっているんですけど、その中で、ツール・ド九州と言って、ツール・ドフランスって皆さんご存じですよね。自転車です。あれが今年 10 月 10 日にツール・ド九州 2026 として出発点は波戸岬で、それからこの名護屋城とかその先はプラプラとか虹の松原を通して福岡市に行くっていうコースでの設定をずっとされてます。私としてはツール・ド九州にたくさんのお客さんが出てこられますので、ここで一気にこの名護屋城のアピールを、取り組みをして、お客様に受け入れられるような体制作りを、ちょっと時間はあまりないんですけど、やらなきゃいけないのかなというふうに感じております。それはですね、県の方で、先ほど一番最初に館長さんが、組織の文化に観光が入ったと。文化観光局に変わったということで、県の組織もこの文化を観光につなげていって、広く知ってもらおうというような取り組みに力を入れていくということで、今やっているの、そちらの方と博物館が連携をして進めていければなというふうに思っております。

それと実は私ども数名で、お城 EXPO、出張お城 EXPO も県に働きかけてこちらに呼んできたわけでございます。その時も唐津市の法被を来て客引きを私してましたけど、特に言

われたのはやっぱり佐賀県の方が初めて来たっていう方がすごく多くて、初めてきたのに、すごく「お！」こんなにいいとこだったんだということで言われておりました。

県の方もどうにかして県内から人を呼ぼうということで、実は私の妻が小学校の先生をしておりまして、基山の若基小というところでしておりまして、そこの生徒が、実は名護屋城の大茶会の、いろいろ拠点を回って、ずっと点数をつけていくというような、ゲームができるような、挑戦状という、その紙を持ってですね見せてくれたということで、県内全部に県が、そういう挑戦状を小学生に配ったというような経験があって、やっと少し、県内に広がってこうしてるのかなというふうに思いました。で、それを見て、子どもたちがああ、親と一緒に初めて来たという子がたくさん、実際私も見かけました。

それと、先ほど言いましたお城フェスやお城 EXPO の時に、結構お城マニアが数万人集まられるんですけど、ほとんどの方が名護屋城は素晴らしいところだということで、ほとんどの方が知ってらっしゃるんですね。ただ、知ってらっしゃるけど、一番最初に言われることが遠いと。行きづらいというふうに言われますので、そこをなんとかやり方の工夫を。お城 EXPO・大茶会の時は、シャトルバスを唐津市が確か話したと思いますけど。そういう観光につなげて。認知を広げるような取り組みを今後こうすべきかなというふうなところで、また新たな名護屋城につなげられたらと。

〔議長〕

ありがとうございました。

今週月曜日にですね。九州歴史資料館の協議会に出てきたんですけども、そこでもやはり学校への出前授業って、どこも今やってるんですけど。どこまで行ってるんですかと聞いたんですね。まあ、福岡西鉄の沿線ぐらいかなと思ったら、行橋まで行きますと。九州歴史資料館ができた時の経緯で、九州歴史資料館という名前ですが、福岡県立博物館の機能も持っているんです。福岡県域全部、全域出前授業でカバーしてますと言ってるし、たまに佐賀から声がかかってきたら行くし、声がかかれば沖縄でも行きますよと。そういう非常に積極的な対応をしていました。そこから比べると、ちょっとエリアが抑制すぎるんじゃないかと思って聞いていました。なかなか行政の問題があるので、佐賀県域を越えるのは難しいかもしれないけれども、例えば朝鮮出兵って、西日本の大名ほとんど行ってるいので、要するにこの歴史資源を使って教育しようと思えば、福岡でも小倉でもどこでも対象地域ですよ。だからもう少し、大変かと思うんだけど、こう裾野を広げていくっていう、お祭りの時もいいんですけども、やはり日常的に裾野を広げていくようなグルーブは、少しあってもいいのかなというような、印象を持ったところです。

〔委員〕

私は有明海側の人間であって、玄界灘の方の土地勘とかがあまりなく、ちょっと不勉強の部分ではありますが、今若い方はやはり携帯やそういうものを以て情報を見たりしますが、県立名護屋城博物館としてのアカウントを作られる予定はないのかということをお聞きしたいです。観光連盟のところで、情報発信されているのは存じ上げているんですけども、ここだけのアカウントを作られる予定がないのかというのが1点ございます。

あと毎週木曜日にラブ FM で「さかの小部屋」というので県庁職員さんか、あと文化課の方がラジオとかで PR されているのを聞いております。ここに今後予定のある行事、どれをラジオであげられるのかっていうのもお教えてください。

今日いただいたパンフレットの中で一番びっくりしたのが、このブルームバーグの資料なんです。これニューヨークの本当に金融とかではもう一番の名前が通っている企業さんのコンテンツということが、こんな佐賀県に、博物館全部を挙げてくださっているの、これをもうちょっと活用したらどうかなというふうに思いました。以上です。

〔議 長〕

何かありますか。

〔事務局〕

今のお話についてですけども、まずアカウントというのは、SNS とかそういった部分とすることでしょうか。それが正直言いますと、結構うちは難しい問題を抱えていまして、今のところあんまりないんですけども、何と言いますか、反韓国と言いますか。そういったところが、数年前まで、いろいろ言ってきたということがありまして。今も YouTube とかにはそういった映像が残っています。そういうアカウントをすると、そういう方たちがちょっと炎上するとかですね。そういうところでやりにくい部分があって、もし何かあった時は、県庁文化課の方がアカウントを持っていまして、そちらの方で広報をさせていただいているというような感じです。

それと「さかの小部屋」っていうのが、すみません、私が知らなかったんですけども、今のところ予定はありません。ただ去年から、ずっとうちの方も、福岡とか、佐賀テレビもそうなんですけども、いろんな取材を、テレビ・ラジオいろいろ取材が入ってまして、「たくなる」とか、その他番組に出させていただいている、それは結構多いです。その「さかの小部屋」があったかな。ラジオもいくつか結構去年出てるんですけども、今年はちょっと少ないですね。

それと、先ほどのツール・ド九州の話が出たので。ツール・ド九州があるので、一緒にうちの PR もという話もあったんですけども、どうもその 10 月 9 日がうちの先ほど言った史跡 100 周年の企画展の始まりなんですけども、ツール・ド九州が 10 月 10 日の午前中、下の登り口の佐志というところがあるんですけど、あそこから上を止めるんですよ。だからうちに来れないんですね。だからちょっと、逆にタイミングが悪かったなと。あそこから上、全部通行止めだったんです。

〔議 長〕

はい。この博物館がちょっとポリティカルなところも若干あるので、デリケートな問題があるという。まあ、言われてみるとそうかなというところもあるんですけども、気が付きませんでした。

〔委 員〕

いろいろお話を聞いていると、なるほど、難しいところもあるなというのを改めて思い出したところです。例えばそのツール・ド九州の時に、大きく皆さんにアナウンスしていただ

くというのは可能かなと。その日は来られなくても、こういう施設がありますよ。素晴らしいですよ。城跡も含めて皆さん来てくださってというのを大きくクローズアップしていたくというのは、大きなチャンスかなと思いました。

それから日常的に言えば、今日はたまたま PTA の方がご参加ではないんですけど、PTA の会合、特に PTA 総会みたいなことがありますよね、各学校。そういう時に意識的に出前講座を持っていくとか、あるいはアピールをするというのは、子どもと一緒に親御さんも聞いてくださる。あるいは博物館の存在とか博物館の展示内容や特別展とか聞いてくださるっていうので親子でという意味では有効かなと皆さんのお話聞きながら思いました。いかがでしょうか。県内、唐津市に限らず県内全体、親子でというところで少しそのあたりに力を入れるのも有効かなと思ったんですけどいかがでしょう。

〔事務局〕

まずツール・ド九州の分なんですけども、県庁の担当課がありまして、そちらから通行止めの説明に来たんですけども、もちろんここを通るんですよ、このすぐ横のところ。で、名護屋城博物館を映していいですかという話だったので、ぜひ名護屋城博物館を映してくれということをお願いをしています。だから当日はちょっと通行止めなんで、後々ツール・ド九州が通ったところの横にこう名護屋城博物館が映ったぞってというような、PR はあるのかなとは思っております。

あと今おっしゃった PTA の総会の時という、市内に限らずという話ですけども、確かにいいと思うんですけど、多分、そこまでなってくると、うちの人員が、今年、出前講座で、さっき言ったように、例年より良くて 22 件入ってるんですけども、で、今後まだ多分、今まだ 4 ヶ月ぐらいなんで、もっと増えると思うんですけど、あんまり増えてくると、ちょっとそれも断らざるを得なくなるっていうのと、学校も、例えば呼子と名護屋ぐらいだったらっていうのはあるんですけど、唐津全域でも小学校だけでもだいぶ多いので、多分マンパワーがちょっと無理かなって言うところはあります。

〔委員〕

先ほどの PTA の件ですけど、私は議員になる前 17 年間 PTA をしてまして、県の PTA 役員もしており、理事もしておりましたので、学校ごとにそういう行事、PTA の行事もありますけど、例えば唐津市の市連合会で、そういう講演会とかも企画するんですよ。必ずいろいろな。市単位で。私、基山だったんですけど、鳥栖地区、鳥栖市と基山町で、連合会作って、そこで講演会などして、いろんな方、先生を呼んで講演会、お一人お一人呼びして、講座をしてもらうとかいうようなこともやりましたので、唐津市全体にするというのも、そこはやりようがあるような気がするんです。で、ツール・ド九州の方は今ちょっとネット見ましたが、名護屋城博物館がすぐに出てきます。

〔事務局〕

はいありがとうございます。ここ何年か 1 回の人数が少ないんですけど以前は 600 人とか 500 人とか、令和 3 年なんか唐津商業高校 400 人とかそういったのが入って、最近は何かそういう何百人っていうのが少なくて、公民館とかが結構多いんですけども、確かにそう

いった何らかの大きなイベント、唐津市の集まりとか、そういった部分だとそこは可能だと思いますので、そこら辺についてはPRを考えたいと思います。で、今年も県内だけでなく、福岡県立大学とか、北九州市立自然史歴史博物館とか、糸島市の方とかにも出前講座をする予定になっています。

〔議 長〕

はい、ありがとうございました。いろいろご意見が出されたところです。

私も以前、この史跡の保存の活用委員会をお預かりしてたことがあったんですけど、やはり問題なのは、距離が遠いということですね。二重の意味で距離が遠いです。要するに名護屋地区自体が隔絶されている。それから本城はここにあるんだけど、その陣跡をめぐるという、その二重の意味での、こう距離感が、あるんです。

最初の他の地域から離れているということについては、広報を充実させていくということとしかないんだと思います。それでも最初にご案内あったように、9万近い入館者をまとめているという、この地理的条件の中でこの数を稼ぎ出しているというのは、相当な努力の結果だろうというふうに思います。合わせてですね、ほかの館、いろいろ見ると、入館者というフィジカルな問題だけでなく、ホームページのアクセス数とか。いろんなそういう、そのバーチャル的な関わりを数値化していくっていうのは、いろんなところでやられてるんですよ。これだけが出てしまうと、たったこれだけじゃないかと言われるんだけど、やっぱその来れないけれども非常に関心が高いという、その部分を拾ってあげる努力は必要だと思うので、こういうフィジカルな入館者だけでなく、ホームページとかユーチューブにアクセスするとか、そういったものも、これから数値化されていった方が、よろしいんじゃないかというふうに思いました。

それと、先ほど「博士ちゃん」の話があったんですけど、今のところ、この問題は受け身なんですよ、この博物館としては。で、先ほど学校の中での関心の低さということがあったんですけども、私も時々あの番組は、なかなか良質な番組だと思って見るんですけども、子どもの視線で、大人顔負けの知識を持っている子どもたちが出てくるということで、どこかうまくやれば小中学校の生徒さんと同世代の人がこう出てきたりしているので、あれを逆手にとって、学校教育の中でこの魅力をこう、大人の視点からじゃ、なかなか気がつかないようなことを彼ら、彼女らは言ってくれているので、そういったところを掘り起こしていくことで、学校教育との接点というか、つながりを考えていくという。まあ、言いたいことは今受け身取材されましたというだけで売れましたということなんだけど、そのせっかくの資産だと思うんで、そこを戦略的に立て直していくっていうことは考えられないのかなというふうに思ったところでございます。

それとですね、あとは「はじまりの名護屋。」なんですけども、もう何年目、3年、4年目ぐらいですね。

〔事務局〕

6年目です。

〔議 長〕

6年目ですね。結構充実してきていると、思います。で、今さら感もあるにはあるんですけども、豊臣政権をやっている人間から言うと、「はじまりの名護屋。」って一番ピンとくるのはお能なんですよね。能楽。あの文禄二年でおそらく退屈しきったであろう秀吉が、京都とか奈良から一流の能楽者を呼んでくる。囃子、あの鼓とか太鼓叩きとかもいっぱい呼んできて、それから面打（能面の製作者）のいいやつも連れてこいて。要するに日本中の能のスキルが全部名護屋に集まるっていうことがあって。で、秀吉の朱印状が博物館にありますけども、朝鮮に行ったらソウルで能興行をやって、朝鮮の連中に見せてやろうじゃないかみたいなことを言ってる。まあ、それはちょっと攻撃されるかもしれない、ややこしいかもしれませんが、能の世界では、観阿弥世阿弥を育てた足利義満と、それから豊臣秀吉が能世界では、親なんです。で、そういう意味で、ちょっと硬いかもしれませんが、お茶はもうだいぶ定着してきたと思うので、その文脈から言うと、能みたいなことを、これは能衣装もかなり見栄えがいいので、展示資料としてもかなり活用できると思うんですけども、少し能のことも、考えていただければ、これから先に話が膨らんでいくんじゃないかなというふうに思った次第でございます。

それと、あと最後に、資料ですけども、こっちの協議会の資料の八ページ目に、服部先生の似顔絵がありますが、その「史蹟」は足偏の史蹟、史蹟の“蹟”なんですけど、上は足偏に亦（また）の“史跡”になってて。ちょっと1つの資料で表現が違うというのはどうだろうかと思いましたので、ご訂正をお願いしたいと思います。あと、ちなみに特別史跡になってから何年か分かりませんか？

〔事務局〕

71年。去年が70年、

〔議長〕

去年が70年。あ、もう過ぎている。特史はやはり大きいところですけどね。

〔事務局〕

はい。

〔議長〕

何かそこを。それからあともう1つですけど。黄金の茶室の謳い文句のところで、こっちのほう、一番最後から2つ目の、これはリッツカールトンの広告なので、とやかく言うことじゃないんでしょうけど、超富裕層向けのツアーなどという表現を行政が軽々に用いていいのかどうか、それからこっちの、更に気になるのは、ここの6ページにある4番目の上位層向けという表現がすごく抵抗が、私はあるのですが。民間企業が使うんだったら。ね。超富裕層も上位層って何が上位ですか？という話がそれこそ出てくると思うので、ちょっと神経を。センシティブな問題ではないかと思いますので、そうですね。

〔委員〕

私も一瞬「ん？」と思いました。ただ、これはここ（名護屋城博物館）が企画したわけではないんだろうなとは思いました。

〔議長〕

そうそう、そうだとは思うんだけど。

〔委 員〕

ただ、載っていたのはちょっとドキッとします。

〔議 長〕

使うのであれば、やはりちょっと配慮があった方が、まあ思い過ごしかもしれませんが。丁寧にした方がいいんじゃないかという。

〔事務局〕

はい。文化課に伝えます。

〔議 長〕

はい、ちょっとね。すみません。私の方がいろいろと口を挟んでしまいましたけれど。時間も、今日たっぷり討論の時間が持てたかと思います。それでもまだ何か言い足りないという委員の方いらっしゃいましたら。

はい、では無さそうですので。本日は貴重なご意見からご提言、ご叱責を賜り、誠にありがとうございました。これで本日の協議は終わらせていただきます。拙い司会でしたけれども、ご協力ありがとうございました。本日のご意見、ご提言が、今後の博物館の発展のために生かされることを期待いたしたいと思います。それでは、ここで進行を事務局の方にお返しいたします。

〔事務局〕

中野委員長、どうもありがとうございました。その他何かございますでしょうか。事務局といたしましては、本日皆様からいただきましたご意見を、今後の館の運営にできるところから反映させていきたいと思っております。当館の運営等に関しまして、お気づきの点などございましたら、この会議の後でも結構ですので、ご遠慮なく事務局にご連絡をお願いいたします。

それでは以上をもちまして、令和 8 年度名護屋城博物館協議会を閉会させていただきます。本日はどうもありがとうございました。